

祝辞

近畿病院図書室協議会の 15周年を祝して

病院図書室研究会

会長 石澤 實 枝
(東京厚生年金病院司書)

近畿病院図書室協議会の15周年に際し、一言御挨拶申し上げます。まずこの15年間、運営に携わられた方々の御苦勞に敬意を表したいと思えます。

さて貴会が10周年を迎えて以来、最近までの5年間は、従来にもまして人口の高齢化が憂慮されるようになるとともに、医療費の抑制や地域医療計画を中心とした医療の再編が厚生行政の大きな課題となってきました。このため病院運営は勿論のこと、図書室の運営にも困難を極め、人的、物的にも厳しいものがあることは、我々として日々知らされる点であります。

一方、技術革新、とりわけコンピュータを中心とした情報技術の進歩は著しく、労働集約的医療界でもその成果を取り込んでいかにホスピタルオートメーション化を図って行くかが、大きな課題となりつつあります。

このような医療界の動きの中で図書館を取り巻く情報環境も大きく変わりつつあります。この数年間、病院図書室独自のネットワーク化の動きも北海道、新潟、福島、栃木、静岡などでみられるようになってきました。またFAXなどに代表される情報通信技術の発達は、一面では相互の距離間を感じさせなくなりつつあるともいえると思えます。

こうした変化を考えると、今後はネットワークをより一層強固なものとするのが求められます。従ってそのためには、ネットワーク内の活動をより一層多面的なものとしていくことが求められるとともに、地域的枠組みを見直し、特定地域から全国的な拡大を図って行くことが現実的な課題になっているものとおもわれます。

これまで常に病院図書室をリードされてきた貴会の役割は大きなものがあります。その責任を自覚され、次の区切りとなるこれからの5年間で再びリードされることをお願いいたします。